

2026 年 7 月 28 日
株式会社日立製作所

日立、AnthropicのProject Glasswing を通じ、Claude Mythos Previewを用いた 重要インフラのセキュリティ検証プロセスを加速

- ・ Anthropic が主導する「Project Glasswing」に参画、社会インフラ向け自社ソフトウェア・プロダクトのサイバーセキュリティ強化に向け Claude Mythos Preview を活用し実証
- ・ 数百万行規模のソースコードに対する脅威モデル作成をはじめとする検証プロセスを従来の数週間から大幅に短縮し、Mythos の高い分析能力と実運用への適用可能性を確認
- ・ 社会インフラ向けソフトウェア・プロダクトの開発および運用プロセスに活用し、社会インフラシステムに対するサイバー攻撃リスクの低減に努める

株式会社日立製作所(以下、日立)は、2026 年 6 月に参画を発表した Anthropic PBC(以下、Anthropic)が推進する AI を活用したセキュリティプログラム「Project Glasswing」^{*1}において、先進 AI モデル「Claude Mythos Preview」(以下、Mythos)を活用した脆弱性の特定および修正の取り組みを進めています。

日立は、世界で最も重要なソフトウェアを保護し、AI の進化に伴い業界に求められるサイバーセキュリティの実践を前進させるという本共同イニシアチブの目的に深く賛同しています。今回、日立グループ内の 100 以上のユースケースを対象に Mythos を適用し、深刻度の高い潜在的な脆弱性を発見し、社会インフラ向け自社ソフトウェア・プロダクトの開発・運用プロセスにおけるセキュリティ強化の有効性を確認しました。

具体的には、数百万行規模の膨大なソースコードに対し、従来はセキュリティ専門家や開発者が数週間をかけていた脅威モデル作成を、Mythos を活用することにより数時間で実行できることを確認しました。また、従来の AI による脆弱性検出は予測にとどまり誤検知の検証に多大な人的負荷がかかる課題がありましたが、Mythos は脆弱性の再現手順や実機動作検証用のテストコードを自律的に生成し、スキャン時点の誤検知をチェックするため、脆弱性の検出精度が上がり、開発者の検証負荷が大幅に軽減されることを確認しました。日立は、これらの検出結果に基づき迅速な是正対応や製品のアップデートを順次実施することで、社会インフラシステムにおけるサイバー攻撃リスクの低減に努めてまいります。

^{*1} 2026 年 6 月 5 日日立ニュースリリース「日立、Anthropic が推進する AI を活用したセキュリティプログラム「Project Glasswing」に参画」

<https://www.hitachi.com/ja-jp/press/articles/2026/06/0605b/>

日立製作所 AI&ソフトウェアサービスビジネスユニット Head of Cyber CoE 小岩 博明のコメント

AI の進化に伴い高度なサイバー攻撃がより容易に実行可能となる中、社会インフラにはこれまで以上に強靱なセキュリティが求められています。今回の検証を通じて、フロンティア AI がサイバーセキュリティ分野に大きな変革をもたらす可能性を確信しています。AI は大規模なソフトウェア解析を高速に実行できる一方、最終的な評価やリスク判断には人間の専門家が不可欠であり、この AI とセキュリティ人財の強みを融合させることが、次世代の防衛の要となります。今後、この検証で得られたノウハウを活用し、社会インフラを AI で革新する次世代ソリューション群「HMAX by Hitachi(以下、HMAX)」のさらなる高度化につなげ、安全でレジリエントな社会インフラの実現に貢献してまいります。

Project Glasswing を通じた主な実証成果

(1) 自社ソフトウェア・プロダクトにおける高度な脆弱性の発見と改善

Mythos を活用し、数百万行に及ぶミッションクリティカルな自社ソフトウェアや外部公開 API に対して、既存のセキュリティツールでは検出されなかった潜在的な脆弱性候補を特定しました。本検証では単なるバグの抽出にとどまらず、AI が生成した再現コードに基づく精緻なトリアージから具体的な対策検討までを、一貫したプロセスとして実施しました。これにより、社会インフラを支えるプロダクトの品質およびセキュリティ水準をプロアクティブに引き上げる確かな有効性を確認しています。

(2) フロンティア AI の高度な推論能力を確認

脅威モデルの構築や大規模なソースコード解析において、Mythos の卓越した文脈理解力に加え、自律的に試行錯誤を繰り返す AI エージェント、そしてセキュリティ専門家の思考プロセスを型化した「ハーネス」を組み合わせる独自アプローチを検証しました。これにより、人間の専門家だけでは不可能な規模と速度で診断を完了し、精度の高い実用的な結果を導出できることを実証しました。

(3) 開発・運用プロセスへの展開に向けた知見・ノウハウを獲得

本検証を通じて、AI を活用した脆弱性診断手法、AI 診断結果の評価・トリアージプロセス、人間の専門家と AI の役割分担、社会インフラ向けソフトウェアへの適用上の留意点を明確にすることができました。日立は今後、これらの知見を開発の初期段階からセキュリティを組み込む「シフトレフト」の推進や、HMAX はじめ社会インフラ向けソリューションの開発・運用プロセスへ活用していきます。

関連リンク

[HMAX | Lumada : 日立](#)

日立製作所について

日立は、IT、OT(制御・運用技術)、プロダクトを活用した社会イノベーション事業(SIB)を通じて、社会インフラをデジタルで革新し続けるグローバルリーダーをめざし、環境・幸福・経済成長が調和するハーモナイズドソサエティの実現に貢献します。デジタルシステム&サービス、エナジー、モビリティ、コネクティブインダストリーズの4セクターに加え、新たな成長事業を創出する戦略SIBビジネスユニットの事業体制でグローバルに事業を展開し、Lumada をコアとしてデータから価値を創出することで、お客さまと社会の課題を解決します。2025年度(2026年3月期)売上収益は10兆5,867億円、2026年3月末時点で連結子会社は606社、全世界で約29万人の従業員を擁しています。詳しくは、www.hitachi.com/ja-jp/をご覧ください。

お問い合わせ先

株式会社日立製作所

AI&ソフトウェアサービスビジネスユニット

マネージド&プラットフォームサービス事業部

お問い合わせフォーム

<https://www.hitachi.co.jp/it-pf/inq/NR/>